

身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

すいた市民環境会議

2003年11月 第31号

吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 事務局/〒564-0062大阪府吹田市垂水町3丁目-8-28.705 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6338-1107 中村小夜子
会長/小田忠文 年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 振込先/00980-3-28845
ホームページ <http://www3.big.or.jp/%7Esstk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日 編集長/古谷啓伸

今後の予定

大阪府環境フェスティバルにブース参加 11月8(土)～9日(日)

あलック吹田散策 北千里コース 11月29日(土) 2頁

会報誌32号の原稿締切り 投書・投稿歓迎 12月20日(土) 2頁

会報誌32号の宅配 2月 6日頃



関西大学構内の
博物館前で

あलック吹田
関大・千里山
コースに参加
したみなさん
..... 8頁

理事△

毎月第3土曜日に市民会館で1時30分から行なっています。理事でない方もお気軽にご参加ください。日時の変更の場合がありますのでお問い合わせください。



18年ぶりにリーグ優勝をした阪神球団は日本一になれなかった…。なのに阪神ファンは優しい。「ありがとう星野さん」という新聞の見出しまで付く。▲阪神がリーグ優勝する前は、優勝すれば何十億、いや何百億円の経済効果が出ると言われていたが、結果は？この不況の時期、是非追跡記事をお願いしたいものである。▲阪神は日本一を逃したが、注目したいのは道頓堀川である。知事まで出て、川をきれいにしようとキ

ャンペーンをした。でも、きれいになったかな？一昔よりはきれいになったといわれるが…大腸菌の数が…、大型ゴミが…。阪神優勝のお祭りも終わって道頓堀川もまた忘れ去られるかもしれない。▲一方この秋、大阪府内の環境に関心を持つ団体が集まって「大阪府民環境会議」というNPO法人が立ち上がろうとしている。すいた市民環境会議は会として参加する予定である。20年後？の阪神優勝の時、道頓堀川に澄んだ水が流れているように…。

あろック吹田の散策シリーズ

北千里コース

11月29日(土) 9:30～正午頃 小雨決行

阪急北千里駅改札前に集合 解散も同駅

水辺コースを散策します。三色彩道など素晴らしい紅葉が見られます。

参加費 会員400円、非会員500円 参加申込先 松岡 TEL & FAX 06-6384-8168

「ご支援を！！」 —— ジャスコイオンデーで呼びかけ

副会長・高島耕一郎

24号の20頁に記載したジャスコ南千里店の「ジャスコイオンデー」は2001年10月から続いています。これは地域のNPO団体支援としておこなっているもので、毎月11日に同店で買い物をしたときの黄色のレシートを1階出口で援助してあげたい団体の箱に投入すると、その売上金額の1%が団体に寄付されます。

9月11日に本会役員ら3人が店内でレシートの投入を直接お客さんに訴えました。会紹介のチラシやリーフレットを配布して、会のアピールもしました。この日の取り組みで、9月分として本会に約9000円が後日寄付される予定です。

寄付金は8月までは現金でしたが、9月から同額の商品の購入に変わりました。

原稿を期限なしで募集しています

年4回の発行です。身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する趣旨の内容であれば問いません。文字数の標準は800文字以下です。

本誌名は「ふきた」か「すいた」か

1997年に創刊したときから本誌名の「吹田」に「ふきた」とルビをつけています。しかし、大阪府以外の人には「すいた」と正しく読める人が少ないので、行政は正しく呼んでもらえるように広報しています。そんな理由で、「ふきた」というルビを削除して「すいたのさと」と読み換える声が理事会にあります。

現行どおりにするか、読み換えるか意見はふたつに割れています。みなさんのご意見をお寄せいただけませんか。11月末日までに下記までお寄せください。

TEL/090-8375-0647 FAX/06-6338-1107 中村小夜子(事務局長)

電子メール/furuyahi@gold.ocn.ne.jp 古谷啓伸(編集長)

本誌名の「吹田の郷」は発足当時の役員が協議して決めました。読みについて創刊号(1997年6月)につきのように掲載されています。「地名の由来説の一つ『フキタ説』は吹田の地形に着目した興味深い説であり、自然環境をとりもどす願いをこめて、『吹田』の読みを『ふきた』にしました。」

ここで、『吹田市史』1巻183～188頁に載っている「地名・吹田の由来」3説を紹介します。

(1)フキタ説 旧吹田は自然の湧水が多く、「水の盛んに吹き出る田」を意味して、古代にこの地を「吹田」「フキタ」と呼んだことは十分考えられることです。中世には宛字で「水田」と表記されることが多くなり、「吹」の訓読みが音読みに変化したと考える説です。

(2)スキタ説 741～804年(奈良時代)に書かれた『行基年譜』に「次田堀川」が出てきます。「次」を古語では「すき」と読むので「すきた」になります。平安時代中頃の『橘為仲朝臣集』に「津のくにのすいた」と見えます。「すきた」が「すいた」とまなまって発音されるようになると、「次」と「吹」の草書体が似ているので「吹田」と書き改めて、文字と発音を一致させたという説です。

(3)朝鮮語説 古代の朝鮮では「村」のことを「スキ」と言っただけなので、朝鮮からの渡来人が住みつけた「村の田」が「スキタ」でした。

フキタ説は、旧吹田付近の地形に着目した説ですが、根拠となる史料がまったく見つかっていま

せん。

スキタ説は、『行基年譜』にも見られるので、3説の中では最も有力です。

朝鮮語説は、「スキタ」から「吹田」へと変化する過程の説明がありません。

さて、理事の間で出ている意見をまとめると…。☆固有の誌名だから、ふきたと読んでもよいのではないか。

★すいたと呼ばれるように行政が努力しているときに、誤解を与える読み方はいけない。行政との協働に反していないか。

☆創刊して7年目になるが、誌名の読み方で苦情が出たのは初めてだ。読み換えるほどの問題ではないのではないか。

★苦情というほどではないが、違う読み方に疑問をもつ声は既にいくつか聞いた。表紙にひらがなで書かれた会名のすいたと誌名のふきたを見て、どうなっているのという具合だ。

☆すいたという呼び方は万国博覧会の開催で日本中に行き渡ったので、「吹田市」を正しく呼んでもらえるのではないか。

★万国博覧会は「大阪の千里丘陵で開催された日本万国博覧会」であり、吹田はどこにも出てこなかった。東京から転動してきた人は今でも「ふいた？」と言う。

☆それでも自然環境をとりもどす願いをこめて、水のふきた読みを続けたい。

大学のあるまち

まちなみ委員 松岡要三

吹田市の特徴の一つは、大阪大学、関西大学、大阪学院大学や、その附属機関、国立民族学博物館など優れた学術研究機関が集積していることです。

これらの大学は、ここ吹田へ広いキャンパス、新たな飛躍を求めて大阪市内より移転してきました。

・大阪大学

1931(昭和6)年に医・理の2学部で6番目の帝国大学として創設。1933年に大阪工業大学を吸収し工学部が設置され、1949(昭和24)年の学制改革で文・法が加わり新制大阪大学としてスタートしました。その後も学部を増設、先端的な研究機関を整備し現在にいたっています。その学問的系譜は、江戸時代の1724(享保9)年設立の懐徳堂、1838(天保9)年設立の適塾、1869(明治2)年の文部省直轄病院、1880年の府立大阪医学校などを受け継いでいます。

吹田市へは1967年(昭和42)に移転がはじまり、1993年附属病院の移転で完了しました。「地域に生き世界に伸びる」をモットーに大学院を重点化し、先端研究のトップを走る大学を目指しています。

・関西大学

1986(明治19)年、関西法律学校として開校。1922(大正11)年に千里山に学舎を建設、法・商の2学部を持つ大学に昇格。関西六大学の一つとして発展し、現在は8学部を持つ総合大学です。

大学のモットーは、大学発展に大きく貢献した学長兼総理事山岡順太郎(大阪商工会議所会頭で、千里山住宅開発も手がけた)の唱えた「学の実化(じつげ)」。

「開かれた大学」として地域社会への貢献にも努めています。

——参考：各大学の学生数・教員数(常勤)——

	学生・院生	留学生	教員
大阪大学(全学)	19,953	1,044	2,475
関西大学(全学)	28,997	329	595
大阪学院大学・短大	9,579	10	244
千里金蘭大学・短大	761		55
国立民族学博物館	39	6	75
合計	59,329	1,389	3,444

・大阪学院大学・大阪学院短期大学

1940(昭和15)年、経理専門学校として大阪で最も古い関西簿記研究所として創設。1962(昭和37)年、吹田市岸部南に大阪学院短期大学設立、1963年大阪学院大学設立。現在は8学部を有する大学に発展。

大学としては歴史が浅いので、国際交流・情報技術環境・資格への挑戦で大学をアピールしています。今夏には、ケンブリッジ大クイーンズカレッジのラグビーチーム、東洋学部の日本語専攻の学生を吹田に招いて交流をおこなっています。

・千里金蘭大学・金蘭短期大学

1905(明治38)年、女子教育振興のために、私立金蘭会女学校を創設。1963(昭和38)年短大設立、1965年に吹田市藤白台に移転、2003年千里金蘭大学設立。

・国立民族学博物館

1974(昭和49)年に創設された国立民族学博物館には、総合研究大学院大学の大学院後期(博士)過程が設けられています。

さて、吹田市では平成14年1月に「大学のあるまちづくり」シンポジウムが大学の副学長、副館長クラスが参加して開催され、引き続いて「地域社会と大学」・「市民社会と大学」・「国際社会と大学」をテーマにフォーラムが3回開催されました。次回最終回は「大学のあるまちづくり—21世紀を切り開くまちづくりのテーマは」との内容で平成16年1月に開催が予定されています。

大学も、独立行政法人化、格付け、少子化、国際化、産学連携などで変わりつつあります。吹田市も企業の社宅・寮や研修施設などの多いまちから、大学のあるまちへシフトしています。企業の遺産を活用した例として、佐竹台のNTT学生寮、大阪学院大学の千里山グラウンド・セミナーハウスがあります。

地域として、大学・行政・企業・市民が協働してまちづくりを進めていくことが課題の一つとなっていますが、上記は今後も期待したい良い事例です。

吹田市では100人委員会など、市民参加型事業に取り組まれています。若手研究者や院生・学生の参加、地域をフィールドとした研究活動も期待されます。また、千葉大学高齢化社会・環境情報センターのようにNPO/NGOとの協働も重要な要素と思われます。

メダカの田んぼでオラが秋

小松孝子（藤が丘）

すいた市民環境会議がメダカの田んぼと呼んで自然環境保全を始めたのは1999年秋だった。私は6年前からひよんなことでその場所で米つくりや畑つくりをやっている。

農家の方から、二毛作をしていた頃からの言い伝えなどをいろいろ教えていただいた。

天神祭りが来たら田んぼを干せ、8月5日頃には水を張れ、彼岸が来たら水を落とせ、など。その年の天候にもよるが、大体の目安だそうだ。

今年の体験でひとつ追加して、「穂が出はじめたらネットを張れ」。昨年までは穂がみのってから網を張ったので、雀がすでに味をしめており、手がつけられなかった。10羽20羽がちょっとした隙間からもぐり込んで、人が近づくと網目からスィーと抜け出す。散々な目にあった。今年は8月下旬にピオトープ委員がネットを張られたので被害がほとんどなかった。

今年9月15日に田の水を落としたり溝にメダカが流れ出た。下手を網でふさぎ、上手から足で溝の草をもみながらメダカを網に追い込んだ。子供の頃、古里・信州の小川でやった記憶を呼びさます。正に「昔とった杵柄」である。

ピシピシと網の底でメダカが白い腹を見せて跳ねるさまは、なんとも堪えられない。メダカ取りの技はすくうのではなく、群れをめがけて網で水面をたたくと網に一度に数十匹も取れることがある。

ピオトープ委員会は田んぼに池も作った。池の端で縞蛇と黒蛇の交尾らしきを見たことがある。カマキリが鬼ヤンマを捕えて目

玉から食っていると、トンボの尻を蟻がつつく。トンボの胴体がピョンと蟻を振り払うが、蟻は何度も挑戦する。ごみをめくると、屁こき虫が集まっていて一斉に白いガスを出す。触るとまたガスを出す。2匹の蛙がミミズを両方から呑み込んで奪い合う。私は吾を忘れてそれらに見入る。

網の糸でグルグル巻きになってお陀仏寸前の蛙を助けたり、稲穂の網の中で網にひっかかった雀をつかまえるとブルブルと身を震わせて、つぶらな瞳がなんともかわいい。「再度入ったら舌切り雀だぞ」と言い聞かせて放してやった。

わずかな水たまりのメダカは、「そのうち干物になっちゃうよ」とすくって池へ……。

そうやって善行を積んでいたら、いつか雀や蛙やメダカが恩返しに来るぞと夫が言うが、なんのなんの、菜っ葉を荒らすバッタの類は見つけ次第に取っ捕まえてひとひねり……、救命もこれで帳消しだ。

ものごとを急ぐときは自分を激励するために歌を自然に口ずさむ。今幾度か吾上に試練の嵐猛るとも……なんじゃっ、これ！ 空腹で鎌をかつぎ、歯をくいしばって頑張った子供の頃の歌「愛国行進曲」の一節である。骨の髄までたたきこまれた「軍国の少女」が73歳にして顔を出す。

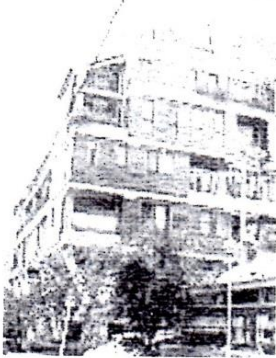
田んぼでもっと過ごしたいのに秋の日は釣瓶落としだ。もっと1日が長くほしい。それに見合うように疲れを知らぬ体力がもっとほしい。

健康で毎日が日曜日。ストレスもなく、わが世の秋を満喫している。

報告・見学とお話しの会 「人間と自然が調和した住まいと暮らし」

10月7日、天王寺区清水谷のNEXT21を訪ね、見学と演 恵介さんのお話を聞きました。

1、大阪ガスの住棟緑化実験 NEXT21 の見学

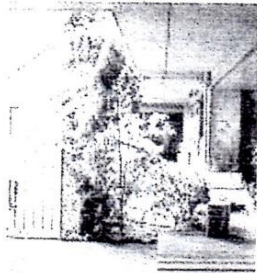


NEXT21 外観

地上6階・地下1階。

緑で覆われている。

ビルの躯体を変えず、住戸の広さ、形、開口部の位置などを改変でき、外壁リユースも可能。



住戸のベランダ

緑に覆われ、開放感がある。共用廊下や階段をまちの街路空間に相当するとし「立体街路」と呼ぶ。見学中も子どもたちが遊ぶ姿が見られた。



屋上 厚さ80cmの人工土壌(土の半分ほどの重さ)で覆われ、実生のアオギリ、センダンなどが生えている。根が絡みあい台風などでも倒れることがないとのこと。緑化計画には、1Fに事務所がある「大阪野鳥の会」が当初より参加した。大阪城と上町台地の緑地帯の中間地点にあり、鳥や蝶などの訪れも多い。

都市の集合住宅において、環境と共生しながらいかにゆとりある生活を確保できるのか・・・このテーマのもとに大阪ガスが建設、1993年に竣工しました。

99年に第1回目の居住実験を終え、住戸改変ののち2000年から第2回目の居住実験を開始、現在、大阪ガスの社員家族など16家族が入居し、実際に生活しつつ検証、評価をしようとしています。

意欲的な試みである分、コスト面ではかなり高くなっており、今後の展開にどのように生かされていくのかが課題と思われました。

①エコロジカルガーデン:屋上、テラスの緑化、水路、池のある庭などにより、周辺の緑地と連携し、昆虫、野鳥などを誘引する。

②生ゴミ・排水処理システム:生ゴミは破碎、搬送システムにより地下の排水処理システムに送り、中水としてトイレなどに用いるほか、住戸単位でもバイオ式処理器を持つ。雑排水は排水処理して、中水として用いる。

③トータルエネルギーシステム:天然ガスを原料として100KWの燃料電池を稼働させ太陽電池

と併せて電力供給する一方で、高温と低温の排熱を回収して給湯と空調の熱源としている。

④フレキシブルシステム:躯体、外壁、開口部、設備など建築を構成する部位ごとに異なる寿命に対応して改変、メンテナンスできる仕組みとする。

⑤ゆとりある生活:天井高を3.6mとして住戸の自由度を高め、アプローチのベランダは立体街路として界限性を作る。セキュリティ、情報システムほか新しい家庭設備を提案する。

●感想...

入り口にビオトープのような自然な感じの池があり、なんと中にドジョウがいて嬉しくなりました。建物の中庭や屋上、家々の外には木々が茂り、伺ったときはちょうど剪定が終わったところでさっぱりとした感じでしたが、これも冬の採光を考えてのことかもしれません。住民同士の話し合いで、緑の手入れをされているとのこと。環境に対する考えが同じ方向を向いているからこそできたことではないかと思いました。

それぞれの家のつくりは個性的。デザインも落ち着いた感じで、そこそこにある緑が落ち着きや安らぎ感を高めているのでしょうか。空中の廊下を小さな子どもが走り回っていたのが印象的でした。

総じて、施設や家のつくりはコストを考えないで作られていると思いました。「実験住宅だからできたこと」ともいえますが、すぐに全ての実用化は無理でも、できるところからやってよいのでは。外壁のリユースなどはすぐにもできそうだと思います。

地下の設備(ゴミ処理、排水処理)も面白かったのですが、これもコストは相当なもの。これから一般のマンションにどうしたら普及していけるかが課題です。

見終わって、このようなマンションで暮らせば、とても優しく(環境にも人にも)なれるかなと思いました。

・・・NS

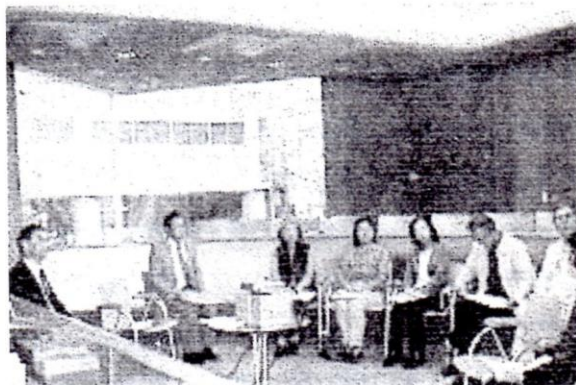
2、エネルギー・文化研究所研究主幹 濱 惠介さんのお話

濱さんは長く都市整備公団に勤めた住宅建設の専門家。

温暖化などの地球環境問題を解決しながら、満足のいく暮らし方は可能だろうか・・・この問いに、ご自身の家作りが答えてくれました。

濱さんは、4年前、奈良で家探しをしていたとき、築27年の鉄筋コンクリートの中古住宅を見つけます。濱さん自ら専門家、施主、住まい手の立場で、この家を環境共生住宅（エコ住宅）に蘇らせ、心豊かな楽しい住まいとされました。

「家庭の環境マネジメント」に取り組んでいる参加者たちは、データに裏打ちされた成果に驚嘆し、濱さん一家の生活を楽しむ姿勢に共感しました。



濱さん提供資料から

- ・住宅を壊せば1家庭の燃焼ごみ 100 年分にあたる大量の廃棄物が出る。建替えより長持ちさせることが環境への負荷を減らす第一歩。
- ・壁は外断熱、窓は2重化。
- ・太陽光発電・太陽熱給湯を設置。年間9ヶ月は発電量が消費量を上回り、年間の給湯熱量の半分以上を太陽が温めた。
- ・バイオマスエネルギーの薪ストーブを楽しみ、灰は畑に撒き、野菜を作る。
- ・庭に植樹し、屋上テラスを緑化。散水は雨水を利用

- し、生ごみを堆肥化して植え込みに。
- ・環境意識が高まり、省エネ器具活用や家電を省エネ型に。月平均電力消費量は200kwh。
- ・CO2排出量は奈良市の平均排出量の27%で地球温暖化防止にも貢献。
- ・ある程度の快適性で満足し、季節を楽しむ。
- ・「環境の世紀」の意味は「地球環境を守れない限り人類文明最後の世紀」と理解。
- ・循環型社会のために市民が自分の判断と費用で貢献できる場、それが住宅と日常生活だ。

●感想...

自分が実際に経験されたことなので、具体的な事例でわかりやすかったです。

吹き抜けの天井に、廃棄障子を取り付け、季節に応じた採光、空気の流通を図るなどとても面白いと思いました。環境に対する気持ちがあれば、さらに知識もあれば、さまざまな場面でいろんなことができるのだと実感。

また、太陽光発電による売電で、住み手が消費者であると同時に生産者の立場になり、それが環境への意識改革を後押ししたとの話は興味深く聞きました。

濱さんの資料から「手間をかけて心豊かに」「欲求を肥大させず、生活の充実を楽しみつつ、市民の温暖化防止行動が加速されることを期待する」という言葉が印象的でした。 ...NS

この活動は(財)イオン環境財団の助成を受けています

本をいただきました

濱 惠介 著

『わが家をエコ住宅に—環境に配慮した住宅改修と暮らし—』

10月7日の「見学とお話しの会」の講師、濱さんから著書をいただきました。この本には、濱さんの体験から得た、エコロジカルな住まいの再生手法と暮らし方がまとめてあります。

環境に配慮した家作り、リフォームに関心のある方、また住まいと「家庭の環境マネジメント」、省エネルギーに関心のある方にもおすすめ。具体的な手法とデータがいっぱいです。

読んでみたいと思われる方はご連絡ください。

喜田 TEL・FAX 06-6330-0305

・発行所 (株)学芸出版社
 ・発行日 2002年6月20日
 ・定価 1,600円(税別)

わが家を
エコ住宅に

生活環境委員会.....

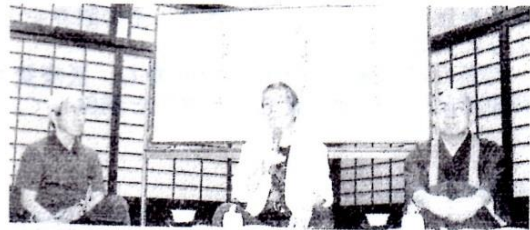
対談

あたらしいライフスタイルとは・・・ これからの生き方を支える心とは・・・

私たちすいた市民環境会議はこの二年間（財）イオン環境財団の助成を受け、環境マネジメントに取り組んできました。その中で、地球環境をよりよい状態で未来につないでゆかなければならないとの思いを強くしてきました。

そのためには私たち自身が行動しなければならないのですが、どう行動すればいいのか、その心のあり方などを当会会長小田忠文のコーディネートで山田國廣さんと梶田真章さんのお二人に話していただきました。

その要旨を簡単にまとめました。



於 吹田歴史文化まちづくりセンター
2003年9月2日

梶田真章さん 【法然院第31代貫主】

★宗教心と故郷(ふるさと)

日本人の伝統的宗教は実は先祖をまつる先祖教であるといわれます。その先祖とともにいると感じられる場を故郷(ふるさと)と呼んできたのです。しかし高度経済成長で親子と一緒に住むことがなくなり、先祖と繋がっているという意識が薄らぎ、故郷が壊されてきた。これが日本人の心に高度成長がもたらした影響だと思えます。

今までは死者との繋がりで故郷を感じていました。これからは生きているもの同士の繋がりで故郷を創造していかなければならない時代になりました。環境会議の活動が目指すものもそれではないかと感じています。

かつて「こんな無駄なことをしたら、無益な殺生をしたら、後生が悪い」と言い、知らず知らず環境と自分とのいい関係を作り上げていったのですが、今は「後生」が信じられなくなっている。これからは如何に新しい道徳心を作り上げていくかが課題です。

★「いただきます」

新しい道徳心の形成のためには、人は個人が基本ですから、如何に気持ちを培っていかに尽きると思えます。私たちは命を保つために多くの命をいただいています。今から食べる命に対して「私のために死んでくれたあなたの命をいただきます」と思って食事をすればおのずから行動は変わっていくだろうと思えます。ぜひ子どもが小さい時からこれを始めてください。

★豊かさについて

「あの人が私のために何をしてくれたか」は本当の幸に繋がらず「私がこの人のために、この植物のために何をしたか」ということが、本当の喜に繋がります。この生き方を追求していくというのが理想的です。

★自然とは

自然はここにあります（ご自分を指して）。人と自然は別々なものと考えから「自然と人間の共生」という言葉が出てくる。

どう生きたらまわりの命との関係で素敵な暮らしができるかを考えていただきたい。

「自然」という言葉を改めてとらえなおしていただきたいという提案でございます。

★環境には新しいルールを

人間は基本的に煩惱(ぼんのう)で生きており、それを変えるには荒療治が必要です。

電気やガソリンを使うのに一人当たりの適正な消費量がある程度決めて、それ以上使えば料金は何倍もかかるような設定をしないうり大幅な抑制は望めないです。

たとえば各家庭の一人当たりの適正電気消費量を決めて、それ以上使ったら三倍から五倍でも料金がかかるくらいのことを決めなければ、消費量は押さえられない。

ゆっくり変えていくなら道徳心を広げ、環境教育を広げていけばいい。個人をどう変えていくかという場合には、やはり、無駄なことをしたら損をする仕組みを如何に作るかに尽きます。

吹田の皆さん頑張ってください。

この活動は (財) イオン環境財団の助成を受けています

山田國廣さん

【京都精華大学人文学部環境社会学科教授】

★課題

道具としての環境家計簿は自治体をはじめ生協などで取り組んでいますが、実際に環境家計簿を付けて環境改善に役立てようとする人たちの様子を見ると限界が見えてきた。その限界をどのように突破するのか。

実際の家計簿にある項目で食費も、医療費も、新聞購読代も、通信費も全部環境と関係しているといいたい。

★環境と経済

ギリシャ語の「オイコス」から環境と経済の二つの意味が別れてきた。

節約と環境を同時に考えるのは環境を考える中心のテーマであったのだが、同時に考えるのでは不十分で、融合させたい。

それがこの環境家計簿のねらいです。

★豊かさについて

豊かさとは「お金・財産・一時的な満足度」だけではない。

時間の経過・その人がどう生きたか、80年90年という時間をどう使ったか、それは誰と価値観を共有したか、それは家族であったり、いい友達であったり、そういうことが豊かさの中の大きなウェイトを占めている。

★社会的ルール

社会的にルールが根付くためにはそれなりの経過が必要です。

環境に対する行動というのはジワジワと直線的に増えるのではなく、あるところまではなかなか増えないけれど、増えだすと一気に増える傾向にあります。

社会的ルールがみんなの合意になっていくには公平性と、個人的には少々不便でも全体として豊かになるよという実感と、この二つがそろうことが必要であるような気がします。

★社会的に評価する仕組み

人間は社会的な生き物で、社会から評価されたという思いがある。

環境家計簿を付けている人を社会的に評価する仕組みが必要で、それは自治体がすべきです。先進事例として、三重県は北川前知事の時に、環境家計簿を付けて目標を達成した人にエコポイントをあげ、個人が使えるのではなく、その人が所属している自治会の助成金のお金として使えるという制度を作りました。これは一つのモデルになっています。

★二酸化炭素濃度の現状

地球温暖化でよく議論されているが、90年に比べて二酸化炭素排出を6%削減という目標がある。しかし、それをすでに10%も越えており、実際は十数パーセント下げなければいけないというのが現実です。

今360ppmある大気中の二酸化炭素濃度を上げずに横這いにするためには、現在消費しているエネルギーのうち1/3しか使えない、これはかなり劇的な生活変化をしなければ達成はできません。

★世帯サイズ効果

消費量を四人世帯で「1」とすると、一人世帯は1.8ですが、二人世帯が1.4、三人が1.1、6人が0.8と減っていきます。これを「世帯サイズ効果」といいます。

世帯サイズ効果は、国を越えても、時代を超えても、あまり変わらない。安定的な意味を持っています。

★10年後の吹田

10年20年単位でものごとは変わります。10年後の吹田はどうなるか、10年後の吹田の環境を具体的にイメージしてアイデアを出し合うといい智恵がたくさん出るでしょう。

プロフィール

梶田真章 【法然院第31代貫主】

1985年、境内の環境を生かして「法然院森の教室」を始める。

アーティストの発表の場やシンポジウムの会場として寺を開放するなど、現代における寺の可能性を追求しつつ、環境問題に強い関心を持ち、多くの市民団体に参加。寺を預かる僧侶として、そして一市民として、個性を発揮できる活動を通じて社会的役割を果たそうと努めている。

現在 京都市 景観・まちづくりセンター 評議員

京都芸術センター 運営委員

きょうとNPOセンター 副理事長

著者 『京都法然院歳時記』京都書院刊 (共著)

『法然院』淡交社刊 (共著)

山田國廣

【京都精華大学人文学部環境社会学科教授】

大阪大学工学博士、環境監査協会代表取締役を歴任。

1970年代は瀬戸内海汚染、琵琶湖淀川汚染、1980年代にはゴルフ場汚染や地球環境問題、1990年代からは環境マネジメントシステム手法を研究。

現在は、「循環論」を中心として、都市と地域の関係を重視した環境改善に取り組んでいる。

現在 関西水系連絡会代表。

著書 『ゴルフ場亡国論』 『下水道革命』

『1億人の環境家計簿』など多数。

第15回 関大・千里山コース

[新芦屋下 金子 幸平]

* * * * *

この坂は幼い頃に歩いた道。街の姿は変わっていても昔の面影探す道。

今回のコースは、私が60年程前に住んでいたことのある町だったことに加え、心いやされる場所が随所にあり、とても気持ちの良いものでした。この度、竹内さんに勧められて初めて散策会に参加させていただきました。

6月7日、天気は晴れ時々曇りで散策にはちょうど良い気候でした。約30名の一団は昔の「花壇前駅」(現在の「関大前駅」)を9時30分頃に関西大学のキャンパスに向かって出発しました。関大前駅付近は昔、遊園地があった場所で、花壇の中に「お猿の山」や「ワイヤーで吊り上げてぐるぐる回る飛行機の乗り物」があり、とても楽しい場所としての思いがあります。今はうっそうとした木立だけが花壇の面影を偲ばせています。

「関西大学」には何度か足を運んだことがありますが、訪れる度にキャンパスがリニューアルされて新しく変わっています。100年以上の歴史を持つ伝統ある大学ですが、新しい校舎・施設・関大博物館などが古き歴史を偲ばせる大木の楠木の木立と程よく調和して、新鮮で落ち着いた雰囲気をかもし出しています。学校関係者以外の一般の人もキャンパスを自由に散歩できたり、レストランも利用できるということで、近くに住んでいる方をとてもうらやましく思いました。

私が小学校2年生までお世話になった「千里山第二小学校」の木造校舎が取り潰されたことはとても残念でした。昔、千里山駅から小学校への地道の通学路の南側は田んぼで、北側は道に沿って小川があり、雑木の丘がありました。

その雑木の丘であった場所に全国でも初期の頃に建てられたという「千里山の公団住宅」があります。当時のサラリーマンのあこがれであった公団住

宅も今では建物も古びて、現在の生活様式から取り残されているかのような感じがしました。また、昔は何も無かった駅の東側一帯は商店が連なり、様相が一変しています。

千里山駅の北側の丘に「千里山基督教会」があります。戦後に建てられたものだと思いますが、舟を逆さにした構造で、意図的に湾曲させた木造の梁が教会の内部を広々とさせ又、心が安らぐ空間にもなっています。教会では定期的に音楽会などが催されているとの事でした。

千里山駅前の坂道を登った所に、円形の「千里山第一噴水」があります。この噴水は大正時代に千里山住宅が開発されたおりに千里山のシンボルとして作られたものだと思います。昔の噴水は今の物よりもう少し小さかったように思います。

「千里山の住宅地」は時代を経て世代も住む人も変わり建物も建て替えられ、昔の面影を探すことが困難になっています。でも「イブキの生垣」が昔をしのばせる懐かしいなごりとしてわずかに残っていました。

千里山住宅の一番小高い場所に小さな祠の「千里山神社」があります。この神社も千里山住宅地と同時に出来たとのことですが、この狭い神社の境内に知る人だけが知る幼稚園がありました。私もこの幼稚園に通った一人です。狭い境内に立つと幼稚園時代が走馬灯のように浮かびました。

千里山コースの最終地は浄土真宗のお寺「千里寺」でした。本堂は、元は昭和天皇大嘗祭(だいしようさい)のおり、御所に饗宴場(きょうえんじょう)として建てられたレトロなシャンデリアを備えた由緒あるものだと思います。本堂の内陣前の襖には、どなたの作だか分かりませんがとても素敵な菊の絵が描かれていました。

街歩きの楽しみ方は人それぞれでしょうが、今回のコースは私にとって、やすらぎを感じ、心がいやされるものでした。関西大学の楠木の緑と涼しい木陰や落ち着いた雰囲気のキャンパス。千里山基督教会のひんやりとした礼拝堂。千里寺の広い畳の本堂…。私の心をほっとさせてくれた場所でした。

あろく吹田の散策シリーズ 9月27日(土)

第16回 佐井寺コース

[五月が丘西 安封久美子]

今回は阪急南千里駅から阪急千里山駅までの佐井寺コースを歩きました。ニュータウン・佐竹台は佐井寺に属していた土地で、竹藪と寺の名前にちなんで「佐竹台」とつけられました。佐竹台のまちなみを通して佐竹公園、ねむのき公園を散策。ねむの木は1本もありませんでしたが、フウの木、メタセコイヤなどは晩秋に紅葉が楽しめます。

次に新池を埋めてつくった新池公園を通して、佐井寺の古い民家が残っている地区(2丁目から1丁目)へ来ました。ここも例にもれず新しいマンションや、まちなみにはそぐわないモダンな住宅がたくさん目につきます。が、古い昔のままの家の方がなぜか「ここに住んでみたい」という気にさせます。

次は佐井寺寺院です。ここは大変古く、大化改新の後、孝徳天皇の時代(645-654)につくられたそうです。ここは湧水が豊富

に出て、境内に「佐井の清水」と書かれた石柱があります。

次は佐井寺伊射奈岐神社です。ここも古く、5世紀頃の河内王朝時代に祭られ、平安時代中頃の延喜式神明帳に大社として記されているそうです。

ここから次の愛宕神社に向かう途中、佐井寺の境内にあった「佐井の清水」と書かれた碑と同様の石柱がある所(佐井寺2丁目)に出ます。ここの湧水を寺までパイプで引いているそうです。佐井寺2丁目から千里山高塚付近をしばらく歩きました。この辺はニュータウン開発以前は田や畑が主役の風景が見られた所だろうと思われました。

次は、千里第二小学校の旧講堂と旧木造校舎を図書館に建て替え中の所で説明。木造校舎を復元する形での建物を、なにやらひどく感激しながら見てしまいました。散策はここで解散。千里山駅はもうすぐです。

歩くにピッタリのよい天気、昔のおもかげを残した初秋のまちなみ風景は印象に残りました。これからの季節にお勧めのコースでした。



佐井寺の境内で
吹田の3名水の一つ、佐井の
清水があります。

この寺の鐘は1649年に京都所
司代板倉重宗が、
「佐井の清水」で
母の眼病が治った
ことから寄贈した
とされています。



吹田の七草予備調査＋観察会結果

平 軍二 (生き物委員会)

吹田版「春の七草・秋の七草」の予備調査を兼ねた野草観察会を2回実施。

第4回 7月20日(日) 南千里駅～千里緑地(高町池)

第5回 9月28日(日) 豊津駅～糸田川(広芝公園)

道端に生えている普通種を中心に観察した。

1. 観察種の集約表 ①南千里～千里緑地

原産地		開花状況		内 吹田の七草		
在来種	46	葉	36	春	5	ナズナ・ナゲシ・ヨモギ・スキナ・シロツメクサ
帰化種	29	花	28	夏	3	カタバミ・ヒメジョオン・ツメクサ
計	75	実	11	秋	8	ヘクソカズラ・エノコログサ・ススキ・セイタカアワダチソウ
		計	75	計	16	ウミズクサ・ワレモコウ・アレチスビトギ・クヌギ

②豊津～糸田川

原産地		開花状況		内 吹田の七草		
在来種	34	葉	9	春	4	セリ・シロツメクサ・ナゲシ・ヨモギ
帰化種	26	花	50	夏	3	カタバミ・ヒメジョオン・ツメクサ
計	60	実	1	秋	7	ヘクソカズラ・クヌギ・エノコログサ・ススキ・ヒカゲソウ
		計	60	計	14	ナ・アレチスビトギ・セイタカアワダチソウ

2. 観察結果

①南千里～千里緑地コースは、当初千里緑地内での観察を予定していたが、緑地内は草刈りされたばかりでほとんど草が無いと分かり、出発地点から千里緑地(高町池)までを観察したが、注目すべき帰化種の群落があった。

- ・津雲台1丁目救急センター近くに群生しているヒナギキョウ
- ・高野台2丁目千里ヶヤキ通り斜面のヒメジョオン・ヘラバヒメジョオン(＋在来種のワレモコウ)
- ・ " 千里高校分かれ道、三角空き地のココメパオトギリ・キバナノマツバニンジン

②糸田川コースは堤防から見える種を観察したが、帰化種比率が43%と高く、マメアサガオ・マルバアメリカアサガオ、アメリカネナシカズラなど、ヒルガオ科の植物が目立った。

七草調査員募集

吹田市内の野草分布を調べるため、七草調査と銘打って35種の植物調査をします。吹田市を縦横約1000mで区切った50区域に分け、その調査区域内に一ヶ所でも野草が見つかったら「ある」とする調査で、何方でも調査員になれます。

塩田さん作成の分かりやすいレジメと、調査区域を示した地図をお渡ししますので、野草に興味のある方、平(6877-0648)又は生き物委員会メンバー(前号記載)にご連絡下さい。



← 糸田川コースで「エノキの実」を試食中

会員紹介シリーズ

その② 大江尚子さん(岸部南)

★ ★ ★

《すいた市民環境会議に入会したのはいつでしたか》

えーっ、NPOになる前だったから、3、4年になります。

《すいた市民環境会議の活動目的は会報誌の表紙の頭に掲げています。関心のある目的は》

自然環境です。きのう(9月21日)奈良県の山の辺の道を女性3人で歩いて、自然を楽しみました。彼岸花がちょうど咲いていた。歴史の説明板も読んだけど自然の方が楽しかった。

《自然だと今連続企画している七草調査はいかがですか》

忙しくて、時間が合わない……。それに学術調査のようにむつかしくて頭に残らなくて、私には無理やわ。でも、去年は1回調査に参加したことがあり、すると今まで素通りしていた野草などに目が向けられるようになったことは、うん、少しはよかったかな。

《気楽に参加できる自然観察はどんなやり方でしょうか》

仲間でエコ・クッキングしたときにメダカの田んぼに野草をもらいに行きました。そんなのだったら参加しやすいですね。

《エコ・クッキングがなぜ野草になるのですか》

えっ、うむー、知らない。

《むつかしくない企画ならば、あろく吹田の散策はどうですか》

説明が頭に残らなくてもよいからいいですね。今、2巡目ですよ。同じコースに2回も行こうとは思わない。違うコースに行

きたい。市外へバスであろくしたら行きたいな。

《自然に関心を持ったきっかけは何だったのですか》

知人が薬を服用していて、食物の農薬との相乗で薬害が大きくなるのではないかと心配して、生活協同組合に入って、……。20年くらいになります。

《会の行事で参加したときの感想をなんでも》

バス旅行はほとんど参加してます。三田のピオトープ見学にバスで行ったのは楽しかった(2000年6月の行事)。

先日(9月2日)の対談「新しいライフスタイルとは」のとき食べた慈姑饅頭はおいしかった。

《今、環境家計簿キャンペーンをしているけど、参加してますか》

ごみ削減のためにボカシをして、自宅の前の公園のビワの根元に埋めていました。その後ごみ消しくんに換えて、楽になりました。(脚注)

環境家計簿は去年のオリエンテーションに参加できなくて、結局家計簿をつけていません。家計簿は持っているのですが。

(インタビュー後に一括記入したとのこと)
《会員として会にどんなことができそうですか》

私事で忙しいから……。委員会に入って何かをすることはできそうにありません。のめり込むと大変になるから……。でも行事に誘われたり、時間があいていたら、参加していきたい。(聞き手・古谷編集長)
(脚注)ボカシとは、生ごみを堆肥化する処理方法。ごみ消しくんとは、生ごみをおがくずと菌とで分解する装置の商品名。どちらもバケツ程度の大きさ。

2003年度 新入会員

2003年10月19日現在の会員数

正会員(個人149人・団体0・法人3社) 購読会員(103人) 賛助会員(0人)

2003年7月1日～2003年10月19日の新入会員はつぎの方々です。(敬称略)

正会員 なし

購読会員 山本龍夫、平田真

入会ありがとうございました

★ 封筒の宛先ラベルの下段に入金済みの年度を記入していますのでご確認ください。

★ 会費未納の方に郵便局の振込用紙を同封しました。入金をお願いします。

会員の種類、会費金額、郵便振込先は表紙の題字下に掲載しています。

郵便振込みの場合は、入金確認が若干遅れる場合があります。

★ 会費についてのお問合わせ、会員の種類変更などは

平軍二 TEL & FAX 06-6877-0648まで

ご寄付をいただいた方々 2003年6月1日～2003年10月19日(敬称略)

大越好子・小田信子・喜田久美子・佐藤和子・高畠耕一郎・中村小夜子・平軍二・熱田克子・小田忠文
・加藤俊二・小川敏津子・田中一子・古谷啓伸・松岡要三・岡村昇二・彦坂利久・小池淳一・須賀井や
すみ・山本富雄・西川整子・大江尚子(20人で837,500円)、
喜田久美子(15,000円)、小田忠文(15,000円)、匿名(500円)

最近の主な活動報告

- 7月31日 「おおさかエコアクション」東山田公民館で参加説明会
8月 9日 「おおさかエコアクション」垂水町と北千里公民館で参加説明会
8月13日 「おおさかエコアクション」豊津町で参加説明会
8月26日 ジャスコ南千里店でジャスコ紙すき教室 参加者約55名
9月 2日 対談「あたらしいライフスタイルとは…」 参加者約40名
9月27日 あルック吹田散策 佐井寺コース 参加者19名 …… 9頁
9月28日 糸田川沿いで野草調査 参加者 9名 …… 10頁
10月 7日 大阪ガスの住棟緑化実験の見学と話を聞く 参加者10名 …… 6、7頁
10月18日 「家庭の環境マネジメント(環境家計簿)」
～23日 グループ監査4回実施
10月25日 あルック吹田散策 旧榎坂コース 参加者15名
10月25、26日 江坂公園で吹田市緑化フェアにブース参加

本号は11月10日までに配達を完了する予定です。遅配された場合は古谷(☎06-6387-2139)まで連絡をいただくようお願いいたします。前号30号は8月8日頃に配達しましたが、届いてない方も連絡をお願いいたします。

編集後記 素人がつくる会報誌は文字ばかりで読みづらくて、レイアウトも単調で退屈するものが多い。私(古谷)はそのことに一生懸命に気を使っているが、私の能力ではよくなる。そこで、原稿執筆者にできるだけレイアウトの完成もお願いして、単調からの脱皮を図っている。